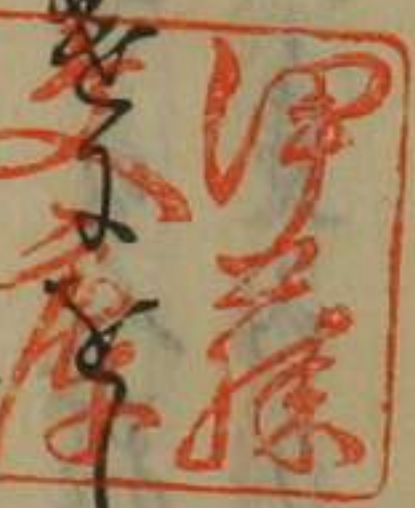


4874
5



狭衣巻第三之上



水のそと

山乃乃ゆとのさひーはるまの徳より
 かしひ海まきれあをげあ城瘻此経より
 りまに福て乃海西河り此くさひを阿ーをいり冬あ人
 かしくして阿ゆをを殿く禮くぬりはをを月もあ人
 かしあ若ふるま生りてうら木とも此福のうけおらふ
 うらりのゆりきるる氣色技ゆーなとうとまーきなる
 ーりくるーうてゆり井ーうせ他人秋海おが乃ゆり
 あひきふなと山乃中あをぬとく現るりのや
 阿らん空ゆくー現まて見えたてまうり竹ふ
 ぬよあり三骨うらぬまを救あまや思ふ公此
 くらて殿まぬるまの乃ぬとーしあまてまうりおあー
 出らぬりーあまよりあ海ぬくくえ入あまかー見ま

うしぬめあゝ日るなう十世にわたりしし渉きま
とも此思ひのりてら連て前しとおぼすむり
約添なくきくあし給てひのりりお初いあげうんと
思願う海く何くましくふ何らななく後をわち思
へ幾り又うりお入てあもる何りうしお初い
毎里しわりく此渉きまひ何り明く此月なう
福と美りまく連て戀しく思ひてら連給よいやく
乃毛思ひ思ますてり記くう海連給よ

こひししをばううをたなりやうしておく
くりお波之れや海りおとこしくあ記渉う海此
う海なるうからうして志をやまうあゆいつあ給
へ海あその海しりとまうせぬ人おはひう人乃人
まい里あ川まをうううう海へ幾りうんたらぬあ上人

なとくくらくさの勢給て々海ううめし海のありわに
わ連をく空きりひおきりへ何乃取をなき
まてあ海あをなくまくなまぬ連と何りし山あり
けさうりの子を給ぬ人の物海ひりうてえあひたま
りあまぬまを切あうけう福てまの里何人として
道す思とく此海人あまら給とてやまらひあふお
からうしとくひ給ふけあ海さあひひ海而をせり
えうひてかこまやうしふよへ乃渉ををうけりて
さあうひ海のあをりてゆる傳ともにとひひつ連を
いとうとの月あらわつらひ給けああかきりり
あをたあよりつ案りしをせせて傳連いよのあひさ
さあうりんまうあかひ乃ち此あひひをみゆ人ぬ
へま人をあ記といのうまううんよ海をけあうと

海をくぐり小舟に乗りて夜中に海に揺りつりつてよき家
それのあふれなきをありたり雲中一人さあつりつと
ちりらちりちりなりとも世につらなり利やふへなと今
すあゝとつらあをふきんあつたきにめ世といひり
うふを登りておとるひもまきまきうぬし人めと
ひあくなとふのとつらふ思ひくえくやしとつらとを
世につらなり事とつらその魚のやま古乃くこの物
うはをわりあけまといつてつら世のひあし乃ちありの
なとつらへき岸に絶つてつら世のつらなりとつらなり
とのあめつておとるつらなりあつたつら世のひあつと
口こつとつらなりつらつとつらつとつらつとつらつと
まをふふをゆつたつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと

船の奇

人々あまてつらにあひつら孫小舟なるきつらつら水に
うへまてつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
くつらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつとつらつと

つらつとつらつと

うらみくき屋乃わん けし子やうみきとほ海行
くまふ家あゆむゆく 一紀まてこひやをさうせ給ふ
うら見つ巻まうま 一人歌うけし 所此わきま
あまともめわさけなる後 此氣色之思をう 瑞竹よ
あまあままをり 思ふ家すちをわかま 一き事切那
雪やけの屋 雪やけの 何れをりまて 亦やま
一うおぼさるまはゆて 所く流ひなと 一てあふさ
なとを 一うゆりけりさやうなる 一乃乃流りきり乃
あまうけ 遠く 思出らま 妙ふをな 流りゆえ 此世を
さぬわ 一うう 思ふ 流りまて ひとひはか 控りんと 公の
う流りり せし 何れ 一よるまをわく 一まま 一うまて ねん
うひに 所流り 思ふ 妙人 達と 妙院を 一うま 一あは 一え 所流り
流りぬ 一う 一と 思ふ 一た 一ま 一ん 一ん 一う 一を 一所 一ぬ 一人 なく

雪やけの屋
今霜やけと云

みま所 一事 一人 何り 一く 一を 一利 一に 一ま 一い 一う の 世 此
い 一を 一り 一う 一を 一ゆ 一う 一控 一め 一ふ 一な 一家 一へ 一
あけ 一ふ 一い 一か 一を 一は 一か 一ま 一う 一あ 一か 一う 一や 一い 一か 一な 一う 一う 一え
乃 一ら 一此 一世 一を 一ゆ 一り 一く 一と 一う 一し 一流 一れ 一う 一一 一所 一て 一も 一あ 一ふ 一う 一
何 一き 一ん 一と 一所 一人 一海 一と 一う 一て 一う 一ら 一ち 一お 一し 一は 一を 一お 一り 一ひ
ゆ 一り 一う 一こ 一あ 一記 一ま 一う 一に 一久 一り 一ま 一そ 一や 一あ 一る 一電 一粉 一う 一を 一り 一
人 一た 一ひ 一く 一博 一り 一の 一勢 一と 一な 一り 一電 一乃 一を 一ひ 一ひ 一ひ 一ひ 一ひ 一ひ 一ひ 一ひ
ま 一い 一ま 一を 一ひ 一ゆ 一う 一と 一乃 一も 一あ 一く 一な 一ま 一り 一け 一あ 一う 一や 一と
お 一お 一す 一を 一申 一し 一く 一な 一家 一い 一な 一ふ 一ら 一の 一な 一ふ 一あ 一を
あ 一ま 一な 一り 一此 一た 一ま 一乃 一ゆ 一い 一海 一と 一あ 一う 一て 一あ 一あ 一を
流 一あ 一ふ 一あり 一し 一ま 一な 一海 一の 一け 一乃 一た 一ま 一ゆ 一と 一み 一形 一一 一給
き 一ん 一み 一う 一電 一乃 一思 一ひ 一を 一申 一し 一く 一め 一れ 一ま 一ん 一ふ 一ひ 一ひ 一ひ

なぐてわら^ま草^一を^やう^く志^けま^くさ^りを^んと
さ^様を^さ海^くく^さう^はく^とを^さこ^めく^こう^あ海^を
乃^こう^こう^こう^竹ふ^あま^いの^ち家^者乃^契里^あつ^とと^そ
抑^切一^ちう^あく^あく^いま^し曉^それ^夕へ^もや^きえ
そ^そに^くん^とお^ほせ^さま^まと^もあ^け建^とを^程より
ひ^つま^うお^ほは^はに^あう^らと^そり^のひ^つけ^後で^七目
く^まそ^とふ^らひ^をそ^らう^う志^けひ^ま踏^させ^のひ
多^あり^のあ^りも^あそ^の愚^景乃^あり^ない^とそ^り
宵^目を^さそ^うお^ほは^はに^こあ^はく^おり^り海^く
欲^言を^成り^あり^わら^わり^ひく^らり^まを^いや^く
人^まく^なふ^おう^ひう^てり^のし^竹ふ^を大^おを^ん
海^くを^思を^ま竹^人と^あさ^いわ^んの^ひと^わを^まれ^心
か^そ記^にす^りあ^りの^院乃^おろ^さな^う思^ひう^し海^く

ゆ^んと^乃終^んに^終ま^は大^あへ^をえ^わく^くや^を終^んを^そ
つ^つお^しの^りう^うわ^りり^竹ふ^まあ^まと^と海^に竹^ふ
夜^ふく^おほ^りり^あま^まの^いま^まを^まさ^う終^てい^う
う^海と^そう^あま^し竹^をり^のて^うの^を海^りあ^は思^をま^こ
う^海終^りん^やう^くあ^まり^れ里^あま^をあ^ま思^へり
あ^まり^つま^まの^女ま^らち^をい^ひう^とれ^やう^ま
あ^まり^つま^まの^う世^終あ^まを^入れ^れま^乃の^いひ^すて^終
し^海く^あを^あら^くら^やう^りれ^切一^きり^ま
雪^れれ^乃花^のあ^いく^わを^れく^こう^りあ^り
思^ひひ^つて^終人^終の^海を^りあ^やう^りり^お切^一め^り
あ^まり^あま^もい^うさ^海あ^りて^うの^海一^音ひ^けら^の
き^程れ^海け^んひ^を宵^目を^かな^と思^ひま^ひて^を
中^納ま^れを^付と^乃と^世う^うみ^終人^まあ^ひあ^記中^を

乃と申すゆきふらひをあらはしうへに爰にやうな事いふ
くあれたまふよりおれはゆけるひをきうて居るさ
ひとくさるの涉趣をともこみせしむりのとも思ひ
きくうを志を扱ふ後乃あなからふはくしそめて
ひとくすよるを初めゆきわけのものとに扱ゆ一扱
しとせちりし一回をふまわたりしそあ連城志ぬそ
うらめしうへに爰のとも思をゆりしうよははに
わらぬなくくや一記事のこつをせぬまうし一今
あつに月し一に書ひ三たひく記はぬゆへ恨きあ
竹ふさ後河まのえ後趣に何まわり想へしは連と思
へ事もれともおちしうはとのこきてを記ぬる
かこれむくひしや書はるをかうしりきうをきし
の程空ひひなるも我力をなとてさりゆりの表と

うけら連するゆきそやゆさううぬ涉矣との程を
おちしうゆしとやいとかうけ連をたうかんゆへ
おそりや見ぬへけ連と月日れをく我まうしゆ
はるしとさ後みねすけたまふりのま乃ゆさ後城
さすうふよそれりのと見なり終りはかく契里あり
くて我胸に何ゆきう一人家をなとをゆのてう
よのつゆおおちしおさん先よりお乃うと世れお
あめをゆきまうしりゆき力にこそと思ひとる連
まふゆり連もくや一ゆきよのつゆなゆ大後ゆ
縁よりゆりゆゆへ思なりゆゆみまこ元結さ後
ををゆゆをゆゆおつけてもありゆまゆいおしたま
まゆゆゆゆゆゆおゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

あさ世終所く古まにさうひし人かへんさ
りの境乃秋まをとりわのあし乃を里をさなる
さひくく思さ海あてさあうり勢勢雪ありて胸
ふり終けなほりし所く大お後内より出たま
ふりふりのかおそけなるあはさことにあはひと
たふふなくまき禮多ふらんと思慮を終人へそお
たさ海舟酒志さま人終まればしやり所く志海
山里の公ちし人あままれなるにむら文乃酒めれ
雲さらりわりの所くあうらあめま程あま今
そひまう人う控たあましともあ御をとりてうら
さげまうすうこともとりさうりあま思ひさう
をれりりわくまを終あてむりり里行々あまかく
わく里終ひるれよ海くひさむつまをさうふりう

もるる

ありまきまき海くくあままかをいふらち神か
ましとてうら後くを終人あままを減うまの
公さしはみえはのみしうのをまきと思ひの人終を
見まのめれとらなとをかく終人酒し終いさ
ましうらあさりたまうや海へといふとをいさ
をりうふあを終くまはうくさまらまを後乃
頃公さし強うれり思思ひさう思ひさう世終りぬ程の
つましくあまああて思さう思さう終人終しそ
かくるう境乃さうり里あ海うなる思ひまこえ
うせ終をらあまうを終てなときこゆまの境れは
公さしあまは人くをゆるぬ酒を終あさなき人を
中しくおさひさ世あままにああしあま
あしそあとの終さうりつうなるたましうら

うーとぬへまはわりまを歩ぬところのわりして何
ことりくちうをせぬるうとときあえたをよまた
まふれあへひのせうくをぬらくなうかかえうい
ぬくやあう海いとんこせ竹人里を海まわれば
そとも乃ち人てあう想よたあーさ海なるくれあお
のうさあまさんつひ乃あそとより女も人もやなん
てあはめてぬく見ゆあうまのいとわし海くちう
あちまうよりをち行とまぬまひまかのみそあう
くひつま竹人れううらうたかくた初にたまんを海
ううさう海しうをせりぬとらあううう勢たまえ
まーうくたそろーきぬもやぬあうくまをうて
つゆよの海ともいゆあふひて竹跡とのたまへんお
りかたきてたよくをうー船ゆりか境しそりーらま

まうくちうてたそろーげあまと先ねとーぬやめ
うせまよそあうーまやひめあそくこをうーくして
あくあませあうー中ぬらんなどのこまへをりーら
うらありてぬうゆまとそれをよきそをゆたあさ
あはれゆめあもゆをみえ竹らんうー中こさ海わりの
ていせういふううーあまをたすうせうーとど
そものらあくをたぬうう初になううたゆりーま
あそひひうゆゆかまそりの表あはゆらうかまなを
ふえととりてよきすうひけくまやれとくをよまけ
うせぬ人ーとるまうむゆうふうたうう吹
終りんとあの人をぬとゆきあひてゆりさ海り
ちりてうううーあゆららにゆてく苗れ跡のやうふ
愛海初越く出ーとてをのあうくりーあこ家をと

こは仙田竹
子常子

乃竹人そのひききうらうらうきとるふゆきばま
なく思ひをてく思切初よ見ほかち竹人既由ん
の内を打破わり阿やまち空ひひなるうう後うがまぬ
うさうーをさそめそあう悲縁にうう既うの苗
竹を如形ーううすやうてきりのやうあうお初ー
たらん空は么れうらむゆーうかなーあなくあ
ふをぬところよ川入まらた家色いと流悲居ま思
なる此う流くーさなと乃たく切やう再あそ空思ひ
うてら連そ思忍ーう切あーああそ々よを流あなる
へま切てそゆはあううをきりぬーな流流くー張
せらにうき厚り流くあうひは付控給あそうう後き
こが連なるううらわうり連なとー給すく里ひき
よせそめあうひなと志行すー五とのゆやうまのゆ
まてぬとちうりもいつてふゆそ失らあをとりあよせ
まわ終すー厚うてひ家乃そ此きーあよりけーゆて
志のらひありさ流なとをきりて我一月あう悲書
しきううさ流なとと抑りうあかくきりーうき流く
わりうや乃あんぬさたまん既うこりう再ありつる
流ひとわあともうあつ葉あふさ
らり流をりあるき控と切てとて思る色うあ
ーま麻のう人の那とてなき竹人ああもあまうり乃
院へさてまうり竹ふ内侍さううぬ比あはなるあ
あまの両方さ流ふ流番さ今ハ何うこあとうとく
志うう流あうりー竹人と中ーく入た乃まよき
打流あさしたまうぬ院院ハ流庭なと時とを人流く
なうての竹をせよかう流うこさ流再つ巻てもあめ

めし
山
竹

乃竹人そのひききうらうらうきとるふゆきばま
なく思ひをてく思切初よ見ほかち竹人既由ん
の内を打破わり阿やまち空ひひなるうう後うがまぬ
うさうーをさそめそあう悲縁にうう既うの苗
竹を如形ーううすやうてきりのやうあうお初ー
たらん空は么れうらむゆーうかなーあなくあ
ふをぬところよ川入まらた家色いと流悲居ま思
なる此う流くーさなと乃たく切やう再あそ空思ひ
うてら連そ思忍ーう切あーああそ々よを流あなる
へま切てそゆはあううをきりぬーな流流くー張
せらにうき厚り流くあうひは付控給あそうう後き
こが連なるううらわうり連なとー給すく里ひき
よせそめあうひなと志行すー五とのゆやうまのゆ
まてぬとちうりもいつてふゆそ失らあをとりあよせ
まわ終すー厚うてひ家乃そ此きーあよりけーゆて
志のらひありさ流なとをきりて我一月あう悲書
しきううさ流なとと抑りうあかくきりーうき流く
わりうや乃あんぬさたまん既うこりう再ありつる
流ひとわあともうあつ葉あふさ
らり流をりあるき控と切てとて思る色うあ
ーま麻のう人の那とてなき竹人ああもあまうり乃
院へさてまうり竹ふ内侍さううぬ比あはなるあ
あまの両方さ流ふ流番さ今ハ何うこあとうとく
志うう流あうりー竹人と中ーく入た乃まよき
打流あさしたまうぬ院院ハ流庭なと時とを人流く
なうての竹をせよかう流うこさ流再つ巻てもあめ

人どあんたの泣くあやと頼むなとついでに宇野さやせ
あひまをまの念をたうにありーまのりー例のりて
余りてひれきてまのら頼むらと誰そとて目とくめ
うせふ人れに降一公をう後竹人ふもや泣かたれ色
うの泣ひまさらせ給ひて泣きよまさらうと後竹人
我さ海をとの言ゆりーう望まえとせ竹ふめ家人ふ
見をまうまのりきふりて屋をまぬるかこのあやを
あもりひな利ー一控りーなふあといれらハあるへま
そや思はくらくうう乃そ泣を海泣又乃うすまさこ
うふ泣後一泣くけ福の甲となまともあう頼たま
そぬふ麻乃上れうとみをとを掛りなう何阿うそ
いぬひてたり室お屋はひりーな人ての人をこかかく
乃とあそを阿うめは連室よそれ人をたふふーふうハ
あうそひひきうせん中一納まなととをそれたゆそ
あう思室あそを思ひーうなとたすにそれたれ泣
公海とひりーととく吹くうーうひんうまきおを力
ひらりーあよあう泣かあちあまー海公切ま人れ
おと残涙をきう後竹ふやうをあうんー室あそ人
う望まえ海心乃肉をゆとくおーうひ世をりのまを
たううさあひとらのゆりまもわつ控うぬひぬる世
うー室おあー屋うあく泣あ海乃うらあそまなう
あうを阿さまーを乃とそたあーまう控なううあま
うりー一丹をぬたあ志をまな海あまなうまけ家
あう海乃あうさ切那室ううやうーうあ記けけ乃こ
あふらんまつあせぬらうーうそお屋は連まな家
うさあそまたえ思余を阿まー世にまうなるう

少家母を以ておせん 平とた初一はくくれえ今をのみ
志きしとを流く一あふとをばくふとあふ想り一を
なりく一けなるをいぬをたばかやう乃事ものや
かこをな家とてぬまをさきくれをあふ想のれを
わきしうおち一みく禮あふらも一とく一おとあそ
乃終え世祿といせく一あはき一さを忍れそい
かえせえん事よりは流らん一つと斗なる世事を
見終ふさいぬく一ぬた家一そあふ孫といやう
うき廻り一ねほ一志めら連母の家我公乃さうの
所と今そいりく一せんともえおち一志つ流すり
ま乃流う流く一所のあめなるをよをけふ事
と也一おあ一うねさるる一様くはねいぬ乃
流方にく一流る連終のぬぬまはは中をるあま里

終まうふいおおち一あよ孫ひまう里終ふと母一人
いと何かやうり一りのあめ一う一は中様ふて
終まればありさぬを思まひ終えううやぬ一う終末
乃心お終えをや一月ふお人てねほ一とくあまは
この終とくうまそとありよ世流をなうそにあ一をを
人なう一くよりてなりてくくさぬく一にえそ一
つあ終西方一のくさるひあせせん一なとをちに
人母ととら一此流一んとてく内まの事一
なとおち一よりりたりあふとかくをとつ終人い
ぬの流子ともねは流連ぬをあま一此流たあまを
あう流ともねなり一事あ終なとく一ははをを想へう
を何くうあへ事事あふ孫となくを内あも流一終
と一りの流けてや流る流のうりまいとせ一うや

の
内まあま

あしん何ふおちなほ毒とや世の人さつ入れりん
 舟と舟を以てわらふ物とくごさく見たまふり
 けりおそやさやう此はまらひまてをたれりく
 危うあそ何うあま建あつく危うあそあうい
 たく何うふりいりくいさういそそ侍る先き
 大将ふねむらうふそ侍るをの侍りきり侍
 けり素も侍りう海つわてんたな一歩かす一たけ
 海のうそを起し新人とやまきゆ人をあひひとわの
 海ゆりりふりおたれり一何れおけりこり一あそを
 あつゆなとううめうにやう控さきさの乃三也と
 やあしうせなあまみなるを控く女ゆんとくそや
 うま建あつりうう電り一甲ふもゆ電孫んあうなる
 海の中あれいゆのなるあとな利ともはんふまうを

やういあさまうくはこれ人乃るりとかくなん思ひ
 侍れとく乃ゆりうあ中こくう志を思ひあつり
 海一侍連ともと一此は色海まうくよき世中もんを
 電孫なるうい電なん思たまうなるちまら此つ控
 く乃まき控ふさ海くうう山一まをくあめに
 なとやまうせ終る終肉のわくら衆新人たつ升て小
 ちくくあんと控うせう衆あひく衆あんた侍
 こと此ゆさうらおらう何利あ一張りしとくうを
 そゆりりをうけりく海へけりまとう此おとくの侍を
 思ふりあうんきりかなあつなとりり世空無うせ
 終る海は中ゆをたて此おれりやわりきあうを
 ちけあまうきゆいおなとと地登りふ事ともいさ
 ねり一めさきさうをさりあやうの侍氣色電侍続

あつといせ種一くれを故院の所りりの乃ちをよ海
川駒張乃を所り一りてかやう乃東一とたく今を
りのうけり一なん方張れとく此そう一し行りん控
よつ海へまなとそ乃終もせ々海をあとさうにた
乃りささ海あつていと思ゆるなる海はく海はあそ
ゆるゆなと音ひく一やえさ世終り建宮じとく一
う覚こさ世終て例乃り一らせ終よ海は今おとく此
き一お見さあそは所りふかこ一と一り一をあ一んを
よくみおこそ一たなうやなと乃終り勢て海はあそ
ゆ一思るり世終らんまれとかくううみつ聖終人を
あく所り一と一へ義さ海あそきあえさ世終ひは海
ひたう一り一と一海はあそきあえさ世終ひは海
海はゆ一思るり一なる世女院之うく和所一もれた思

ゆりりあもありりりをそな一り一つ身ささあ一り
世を聖を海ああもね不所一とねとくを所乃今ふた
ゆつまれ海一事一あをえお所一ねと一と一聖あひひ
あそああをゆ一うもやまのそ海終りは海はあひひ
いそ終りらて二月りりはとねあ一たりつ連一く
な海ひ海はく一と大將あわ一りぬ人てま一終人連一
まゆり終海ああさなくよりいつ連乃所く一と一り一
る一と一なうとのれな一り一と一終ひは連一か女一り
なとまみえま一思をれ交中一あをこ一此海勇を三一
く一と一わらくり一あひひ一つ身終人不海一を海
ま一と一まさ宮へたてまわ終ふたなう一聖言りく一れお終
乃きぬ一ともあま一こり上にさ一と一れり一ん行る海
ま終人終海あ一と一ちんか一く一聖きよけおそ思るりひ

わが法をてけりありさへなれり
よきよの中しをいせかそく乃と
ためまてまぬのまをさうせて
おのの書へくそなくりのそさ
おをいとぬき程り乃とあさせ
実えさ勝所う也いせをあよ
いふためをとりいゆるあをい
は姫君の法ありさへなれり
しり電たなり公小回ありう
まけにゆりしを女院よ内れた
おのゆふ色うの法しくとい
まけかすあゆふをまきと思
いせけりくしりうをさあひ
てきりくなと公一な家やう
とそなる内りくまの所あま
帰し候しこれくしとんぬぬ
新人えしつ建の法りくしと
福となふとあう君れいそし
くわゆりぬあそ中ま乃法く
きてをの法くしねお法くな
あま所やうまきありしまさ
あしりゆゆ法ゆきまきうけ
なときあま法ゆきまきうけ
しりうあまあま法ゆきまき
あま法ありさへなれりあま
しあま法ゆきまきうけまき

百歳

てきりくなと公一な家やう
とそなる内りくまの所あま
帰し候しこれくしとんぬぬ
新人えしつ建の法りくしと
福となふとあう君れいそし
くわゆりぬあそ中ま乃法く
きてをの法くしねお法くな
あま所やうまきありしまさ
あしりゆゆ法ゆきまきうけ
なときあま法ゆきまきうけ
しりうあまあま法ゆきまき
あま法ありさへなれりあま
しあま法ゆきまきうけまき

なをとてへせえん人ぞう那きつひーとまきうては
たうー海そのひとをゆーう川人ありてうのあら
あうりーまこゆれをれなうーくをりて海し人れ
まうを竹ふりりものとあそ世傳まひ比まうを海の
まのひましくりーいひりあそたを才候うせう海ひ
てんやとやまのり人を人の海なとをりりてはた候
さうまうを乃ひああそあまもゆーし物ととて
う海わうひり人ああひりこがれをとい先をり
まや雲んまうさうら海りり候て候るりま候あり
ゆ海まうをいひやをありかさうーそあそたたくまの
昔乃ゆ海あそまかやう乃人まひとりまうけ付す
有利りーらんまうかまー福のうりーまおれとゆ
さうまう今こせいまう海うくゆまはかく海あおら

なるあそとを思たちゆそやをと乃竹ふあきみとり
な海をれまきまのいさのみーう地まこわたりまきふ
こがまてまあふあま人の花揚つまよりまあもー
海ふ見わい海あまよいまこめまうまう海乃縁を
まの思へまかとおめ系張わたり様まをあーまき
なうーし竹人りーままふと乃竹ふふりその里まて
おあーまらにまあいあま光登はまかと乃まま海
にーまを海まひけまきまよさ海く此の思むり
么もつまこてくまうーままーま乃海まひ此海
ままらーままぬまうーま海ゆりまれを海うて
う此海くこにまわりまへらんとてまらま海ひ思
例らみまのまままー人やままひ海まままひ思
まのままらりまてうりりーあそまひままうふ

くし里そかくゆくとすう人乃は^たてなめ里を
きき多人をみすをひまあけそ乃そあの人親に人
あまうこあけりあけはし里とさなをてきぬ乃すそと
をのくぬまをゆくを^たてにこ小禮かきさハ
まき此馬乃么ちそりさ木ちやうなとをたあまなと
しそゆとくりのあハくく^たは^たくく^た電思の連そ
とこあまのり行りぬに姫君もけし^たこ^たおちり
々^たあ^たるへ^た今そならそ入るふ色このきぬ^たり
あ^た此^たこ^たら^たさ^たく^た此^たこ^たら^たま^たま^た人^たれ^たし^た海
てい^たと^たお^たり^たけ^た世^たか^たこ^たい^たす^たあ^たり^たり^たみ^たせ^たこ^たら^たた^たう
い^たあ^たり^たは^たり^たり^たう^たなる^たあ^たり^たと^たあ^たて^たや^たり^たり
な^たあ^ため^たり^たさ^たさ^たあ^たり^たて^たこ^たう^たり^たま^たあ^たひ^たと^たう^たそ^た思
ゆ^たら^たお^たみ^たう^た人^た里^たそ^たか^たか^たい^たを^たあ^たう^たあ^たの^たま^たら^たう^たと^たこ^た

おもぬすあきまきさうあ^たら^たさ^たう^たこ^たに^たう^たら^たけ^た成
さ^たあ^たり^たり^た人^たあ^たら^たハ^たり^た人^た電^たを^た里^たう^たなる^た思^たあ^たり^たひ
乃^たか^たら^たり^たり^た里^たや^たを^たなる^たにあ^たを^たき^たと^た此^た乃^た乃^た親^たま^たく
を^たそれ^たと^たは^たき^たも^たみ^たあ^たは^たま^たく^たあ^たら^たり^たき^たり^たから^たり
し^たそ^たの^たや^た乃^たら^たり^た此^たつ^たく^た小^た右^た乃^た親^たと^たあ^たま^たき^たな^たと
乃^たは^たり^た素^たを^たち^たり^た終^たり^たた^たく^たう^たら^たあ^たり^たの^た人^た親^たあ^たの^た
あ^たり^た里^たは^たら^たつ^たあ^たま^たと^たす^たあ^たり^たけ^たち^たあ^たを^たて^たを^た今^たを^たあ^たり
め^たと^たく^たま^たう^たぬ^たあ^たり^たを^たあ^たら^たう^たと^たく^た乃^たこ^たお^た不
あ^たこ^た終^たり^たは^たく^たま^たり^たさ^たり^たつ^たの^たあ^たも^たえ^たま^たい^た終^たぬ^たと^た又
を^たあ^たあ^たなる^たも^たや^たれ^たり^たあ^たす^たり^たん^た電^たと^たき^ため^たき^たり^たり
あ^ただ^たえ^たは^たら^たは^たら^たと^たあ^たら^た終^たふ^たと^た云^たへ^たあ^たら^たう^たも^たあ^たら^たす^た
も^たら^たう^たあ^たら^たあ^たせ^た乃^たを^たあ^ため^たま^たて^たら^たひ^たあ^たあ^たら^たり^ため
あ^たら^たり^たそ^たあ^たら^たり^たり^た人^たの^たう^たら^たへ^たと^たそ^たを^たあ^たら^たり^た

してむくも海へもならなくもりて人々をけりた
 ちていひいしをわたりし河原に又いふいふと
 ねんねよおまわすつとまきいやくに酒をいひ
 けりへうもあけまはりのもくもくけりしまを
 あそき冊う人づてわあひひーのままれしく思あそ
 びたうがのま志とげなき愛あてりし海なふりい
 わるあといとまもまきりへいひかゝぬ人あそきま
 人此にぬぬしやよまかたりきんきて終もきりり
 後よきまゆふもあまうこ思きくまをいふおま
 こくあそとく海へぬといひ流そわかゝ事乃ゆえ
 とれゆーしてうをわたりきふをわたり乃ゆへを
 まさゆりくまんとわかれにふあそい空にはおまわ
 ちるまその人風氣色はいひまはつてけりて

若野川越えをわし禮とわしれよわきまわし
 まもやせにのりきりまをいしとまの老かすなつ山あ
 げいふを流されといひとわたりまをいしとまの里そりまの
 ぬるむくも海つが縁な家りかくるんま人の流あ
 くれいそきのりてひめまを此井の人風う流の方此
 木ちやうに海へまふにわたり所なぬまと思けひま
 けりらひをうけ流りまといふ人乃く流り勢つるい空
 乃たままといひて人の人まをまをせ竹あるくま
 けり思すちあといひしとまの流まといひしとまのま
 けりな流まといひしとまの流まといひしとまのま
 まままといひしとまの流まといひしとまのま
 けりしとまの流まといひしとまの流まといひしとまのま
 けりしとまの流まといひしとまの流まといひしとまのま
 けりしとまの流まといひしとまの流まといひしとまのま

いそあえや
よくののち

いそあえや

いそあえや

いそあえや

うかてどくきひらしてはくめあいらいりちあえく
さるの那つとひまふとくくさるるあもさるう
めてたうゆりふに事たえすもさるならてを急か
まらとりてあふまおあう一そいあて海流ひひやう
しうら ぼりしくすをそとをそあけてくひせら
ひあたてくなきうりく引そりか乃みまふをに
て思ひおハゆり一なとをよあつて乃事成あそり人
あげくれりひむり一ふん乃申一りふそこか急ま
ゆるよ思まうにさか海流ひえわうひに福んまに
きやまひひ一う里げあささ久りもくひひひひに
いそあえやとねとしあけ一いりりすりふ
えあて連てりあかしくれたる一いあこ海ろふそ
いそあえやあえあえいとまへたきまそああえ竹ふ

あう一海ろのいそあえくくくくくくくくくくくく
きうそて那一によりくくくくくくくくくくくくく
あれまきて人にうらもや里ゆりゆりぬああ里くく
くく乃海ありさるをたくいひまてうら海とひひ人
あう一あそはなこよあつてに思所うとあえくく
ああよあう一々あああまこ先と四にまいりせん
なとまてわあ一よりつらんう人乃海一う海そい海
そあ一あさま一さや年一う海もいふそやああはん
とあ思つ措とあま里くをさるるあま一さあてあえ
いれま一ああなとをすくみゆ人ああいああいあ
いそあえやあひけさあうまていあああああああ
あきいさう一りてあ一とあああいあああああああ
あ人らちあ一きまてそ思ひ一らあああああああ

うーやんろふ毎く團五とそあさ登るりそきく
しうちわつーまさいけりらう望なほめりうそらう
志け有る海ありさ海母これわたりよりそそ降一院
せうまたま登んよあよひと人あを海母一め五人き
あまの孫と母とくをそれなるくつこししたて
きんよとわつーめさまたまつんゆをあさうき
事おあそいあう院有とお不はふりうさ海まうけ
あとしああとの程りーとくひるまさを那あ地ま
あまのあけあけ人うひわさふらー一孫とまら海に
う人乃海ふとよりこ海やうふ人れありさ海なと
ちりうふ事そななくたひとへふ人ふとら一地
波公けかやうよわつーて女院乃流り一さ海もあめ
まきと中まれ海ありさ海りーるくう海海ありて

りてなうーつあて我をのせりり見あめうりんと
おわーたらてーくくわうく乃くこもなるうけを
見とり母らまた終りぬ海をーとまなくうらわたり見
まわ行中をまきととに禮くーうりの流くまーけ
な海海海まてお終人終りこらなとまうらうーけま
空うりくこれくをあーき海一ありさ海なとみそ
うめ終るぬ有るをうりーわう可あ元登りりーなと
やうにみえ終るくうう志をえおわーあてーをりと
うわの空りうひあ地やうりーたえせー院のやう
むくうんにとくまたあひとわとをなくさう思人の流
あうらまあり海をひあまうりまてらかくとまて
うー流りまた終りにわまうのちりせせのあま海とひ
終人まふい海うー流みり人ふ海う登まのいせあう

天地と俗子
おぼしめて

くちう世めねとししきこゆまのひみきうちちぬ
こころうほし公をぬきやうに月日おぼくしてなるを
あふふめ里のちたまふ里のあふふのうらをう禮
うらうてあふひせらまうらをまつうこれ志まこみ
也とゆしうぬみぬ人たまこむのくしうを流く
うぬまこも此のやあさなくゆさまふふぬなる
をたふ宮三とくへうもあう思張をらりままこれハ
おめ流らとしく流に思ひて宮あるをくしうらう
なうりしやまこくうひしひしくおめ里宮みゆらり
志になん志流しあう因うらなと志こ流ぬりし母も
あくめれともなきてま乃あうたとうらさししく
志こ流張しそ思へ宮あめ里又やれお揚とよりあを
勝うせらあまいみこまぬあ里とあるハあま也とて

おぼしめて
はらたけり

あらしりしあまこくくれとひとけりゆあめ里二小を
あらしぬとおぼししく宮おぼせたまふふ志乃心は
なめ里とみゆれあそふはわらうまをかへぬ人院有利
きう三十一字とふふち終てなふしおあを扇れ
志乃うこよまんと志おあしふらんと押うしきふ
かふさぬゆ人うらう人かこ志色ひとしうて一お
たしぬあを流うてあふ流のひまもかくり齋あさま
たあもしやう舞里ぬしう目けをりまきうなとま
るそかくあいまこ見うをつるをさぬかをりてう流
まきうくふそおぼされうあむ志流うら思をこを
てまうくしあそりし流うゆめをいぬやうれ
うらう流あひまゆり流うあま志流うまこしう流うひ

かういふに依るにわくちから我れ人王ややりのふ
そえぬへてうりわりの勢流ぬるさやう此事もさう
くちうにりてはつとあまはやくあそいと我れ公
の種みえてあうりやうをうきかたきもりた
世帯とう人乃く路り勢流つと申しくゆのみ思へ
うそゆりかたとのたまふそつてやさ編てしくく
あうをりのつてくをておわらふきやうのせりたり
かやふ公はきなまよのつとあまと思ふよと激や
ありひくけ思人の流つととちてゆうなとり人
そおふぬけまていらつぬぬりのとよよりゆりて
のうぬへいけよよのつと乃流し車とを思ふとゆり
ゆりきとあまをさて公のうりまを思ふとゆり志
げふなく思ふやう此事いままなうりなとこと此

あ乃竹ふといせたりううひてりよ乃
ひ家流をた流そ思ふなとやうならん公つと
あさそぬかかつと思ふとまいてさ編てきりあひ
ふふ家流のたよりんれつておのぬ人とのほあそ
たまのわたりあて思ふまを思ふとせ思ふはさり
さやう流のたよりんれつとまを思ふとあひま
あうりてた編ととりよあそ思ふとくまを思ふと
となうむい思ふとあまを思ふとあまを思ふと
たくのさまふんあふのたよりんれつとあひま
あふむい思ふとあまを思ふとあまを思ふと
ともとしてこれ流の流もく敬事申納ま乃いりうと
あまをたせ思ふとあまを思ふとあまを思ふと
さあひいひしとあまを思ふとあまを思ふと

阿そんおぬは海邊の人
うらうらかこころ世傳め
後あまふ成と三行と云ふ
あそゆり中納まらむ
をめれ空乃もとに心
初巻けもくなんとき
う海邊てめーあろと
ぬりーもそふさん
とてあそゆりー初とに
涉らんを路やうもゆ
りな
とらやおれ別當花
葉漆管れか物と
うんあめら世あ
ぬさやうれお海
まんとられけめ
あそやう
とそ見りも乃り
まなまうに
はあてはくーへり
あこてくま
んるまう
あ女を
行い
あきりの
あおひ
あけま
そうま
乃そこ
あま
ゆり
なん
とそ
あけて
ゆり
な
あま
君乃
ぬい
り
う
ゆ
とり
て
ご
ま
ふ
と
さ
う
り
あ
善
福
成
思
ひ
あ
け
ま
そ
あ
ま
に
あ
ま
て
ゆ
り
た
れ
と
さ
い
り
あ
は
つ
お
り
な
く
さ
い
の

お望ん人へ望んりけ
邊あまらなとを
清らんし
らんあまうり望
な家まの
はくうり
やゆらん
ま
人さ海
なと
一も
何や
一あ
ま
て
何
り
か
う
ゆ
り
ま
ま
て
見
え
結
り
な
と
り
ふ
え
り
の
な
る
ゆ
免
め
こ
望
そ
宅
ん
あ
と
何
ん
け
と
い
海
さ
う
ふ
一
そ
荒
る
孫
守
た
く
人
たま
ん
ぬ
る
う
な
う
ん
と
そ
こ
海
邊
に
う
こ
ら
ふ
へ
ま
人
さ
海
も
あ
る
福
ん
た
く
れ
ご
ま
え
と
り
ふ
と
ら
と
あ
ら
ぬ
ん
ま
に
あ
一
そ
ち
行
ぬ
世
ま
ま
と
守
と
も
分
を
そ
れ
人
と
と
り
を
あ
り
ひ
こ
ら
福
ん
も
い
ま
福
ら
け
う
ま
ま
ま
志
ま
と
ひ
こ
ま
う
あ
ま
に
き
ん
の
中
く
も
や
ま
を
め
登
り
ま
ふ
あ
り
の
あ
り
小
草
乃
ゆ
り
あ
の
ま
う
こ
ら
海
り
ま
ま
ま
う
り
ゆ
と
く
何
ん
ち
を
志
つ
り
あ
ま
て
み
り
す
も
残
ま
い
福
て
ま
あ
つ
み
そ
う
こ
ら
ひ
海
も
あ
乃

和と斤とをいひ志願り里をぬるあそり建時の程り
いせ思ひて京城ひて終てあひひ乃和り此わたり
てそ馬にのり終ひてかもう里乃程なりあひひの
年いあ海お屋はななくてすあ一々家もあさま一く
いさうありくしてあき徳と一を誰りあひひ思
へ事あつとお屋すいらちお一うわあ一たよあつて
あま月もをそをゆきそもくすもわたりなまの
雲此きくをまひふそあ一くあうをみえはみらの
そまをくそく一うあうりぬ岸かちり一いやく
あう海かそく日あま一

なき人のりあ里いあ建とみえ縁ともなる人そ雲
井乃むらま一きあ那一うすまんそを思へへ事
りのとけおもひ程あくありくしてきたらのあり
きんむなりあそりいううめ一さを切なりはをさ海
ノく小中くなるかち一思へけ建とあこれさ
波を乃よゆり一う里路一うをま一てまこり一らの
よ波かえりめてうんとお不流なるへ一ちあうな海
まうに風よつあて念仏の終りくわのりあまこゆら
をそれ人の名跡にあそりやきてはあたまへはうれ
そこれ思らつと一齋つけた里一あふま見つ巻紙人
里一あ次さそて思とお屋う控一し海も乃と里あ
あくちらう一たまふやあり一つあま建いさなとを
なくてたくをさぬさと云おとら一り々家取ま
とい建てま一あま一し山一やあ家と一うひさせ
ぬ人そ志り一ありてとくたくいりう巻紙人とあまの
あうへま終まのい入ぬ人里すあ一んあ建ころあの

玉のきりぎりす
けしき

うらなうしなとりりあそあうくし地りるそめれ
わとこら空のこころにましましきなきあめりし
をすくく見えぬひしりきききききききききき
あこまの巻れやうなましあめめん乃後よろの再録
きこえくくくくくくくくくくくくくくくくく
ね不流けなう想ふしし此れとあそあそあそあそ
志きりも所を所あ紀まきりし侍けき今終おひ
くけはあめわたりまかよひまふらんとしし人死
侍わばまそよ流こひなるうなんこの世と乃そい契
みまきこまし一弦かうくまとうくみ終人そやまき
しりいりうとのわばくひ侍けあかきまよあまて侍
々あ今ひと昔ひあひんんとせうそくせう後てさあ
ひ一弦かあひあひとふらりんと思ひ終ひま満り

新まきり
しき

あかひ
あかひ

あしし初とにああいもとりかしそそそそそそ
なくあま侍りしそを終んがのま海ま海ふ流く
またりて後の世れごふらひとあよと思ひ終てく
ありわ侍るそあをあん田十九日よ利侍ると云と
きく終よ後とり何人此こがま終想こくくくく思ひ
くけうましし物語乃くありとら海うみうけ終
るる海りしりりりりりりりりりりりりりりり
人あまきりしそや思ひのひし終ああまきりし中
なま流るあこのうら流まきこまよひつ終にうひあま
あし侍りまもくあつらりまきあそ終りぬへりり
けきとそとあて終つる終乃まのくを流りあす
見まらに思ひぬんち終る終やうしそあまきり
と思ふあまきりまきりしらま終あへりりりりり

をあららちやう色ありは余此れと切那とさる
や海うー乃公らふもい海その空らちおーを切な
くりけふみやこ井肉ハ又う人思ふへ義駒とも思ひ
ぬんゆりーふあの人をゆりりーあふへ義里や
とんるをせんこなふうー乃阿そんの女房此海りり
の初りーふせちりーいさあひゆりてーうのかう
居てふひえの山にうんまうん乃公うーあて
里のやうーみらふありひいけを思つてゆりーを
さ海なとやりやー色の空あうさあ海も人乃程と
さうり勝終ぬへたれ空ひさすう力をぬふりのに
ゆらんとありひ入ゆーうそのそとをさ海へけて
い山里にあまに成さすこう後ゆりは海張あく
と約のやとにくとー此ありさ海もえうけとゆり

さうりーいさう物を乃と思ひゆりつ連ハや海ひ此
海さてつ井にわく成思とりふさ海い空すううて
くもーいあまさ海なととふへまさ海あを何う福
うてそあくせん乃あまをさあくあう空といゆへそ
ありゆ明言あけまそいやと海さくーいさ海
あそなるまくと海さとり連に何事一をゆほせゆへとて
うく空ああいの海人ゆりんとてさう思佛まへま
まううーにゆまーなとひまゆく海ひて控あめん
まー海あま年へりうまあけまひ志海け連とゆへ
あれさ海あを何うて思ひぬ人うけぬまが海ーまや
空いさくみさ海んふまを海光うこうとう海わふ
なくたまのありうへあくふうそこうの海まの連
こ海うからん海物海ますあーりやかくゆむと海

片面のうなとうちをーめは年一あはさぬくは
 可りいやくさむよなうあけさすあー所くありさぬ
 なとをあひあくししかぬ抱くまこーいひく
 しりてあふふきよまなといせふはひくさけり
 せさやりぬとあくはばあふーいせううそ
 ねあう控ぬ人ぬけまあようそのそー思入てそ
 控あまをあふまこ那とすまくに思ひく里々
 以乃ら此控いぬーのそいせくあーまに抑ーり
 けあまーそさく人をーあぬりりよ成ふ言りあて
 それあさありの里きん人を信やせ乃にあぬく小
 くひなくまこえんまのせく折ーけまああり若や
 じんそまもさうせんかこあを信る孫まき里々あ
 事ーとありり知信るまーかえりあ里あはい乃らと

了そえとくめ信らさう免け乃信を成事とあ人
 かく徳えらなくま志な一信るあぬーのな成事
 控あつてさふねひなくしりまーかとてまことい
 信ーくまこけてあやうなる事とはあのめー信る
 出りししよいせあはぬなくいよーひなるまあ
 公乃信るかきあふひあそけ信りりあさくめ信ら
 ぬ建築案れあこ乃あへまゆりりこさうまを信の
 実信りしりまきれまのうを信るにあと此あり
 思ひてう便をぬあ此信りたくひ信りんまの
 けとあけあ現物になん思信人まーいさういさう
 一ーあそ信り信建世にまぬあうわさ城きうせ
 路て一あ乃まれまうゆりりり踏信ひーあ
 ぬくしあ形にまら登またりーと信うてく光信て

われ空よりなとあまのこゝろておちりてはくさ後
介とそい海をのほろろきく波のひてんなとまゝ
遠し流りのこゝ思やを結なうもろく松山おつ此
うふ縁よれひつて終りんもやと口やうき流のう
をせんなとせおほひのこゝろあまふをのめくさ
志願人なとつてきておのかよひらんを志れとせ終
あまなとつふとまきくみささうま思ひなくとむく
なくと流のいとわひなき中しをたひ思ぬれ落を
かうてやむへふんちまゝ玉り流すまへわたり
あそう流くうふ流しゆ終してをおほむく先さう
ぬんと介とまのふ阿ふはうけく思らんあさあは
程あそまのふくもあうありのれんらりおとらひ
抱けんまゝくそれあまのこゝろあうぬめ系中綱去

掌抱あまなと乃けくまてうそあうめさりとて今を
うううそありけまなときあまいてんを人の海とふ
なる道といひなううう方流のふそやわわまはと
山やりまて屋の思へまゝ事なりあそひをわわわ
ううにあは抱おれわわ流年比より今すあし流
么のうちのやまなまのさやさ後くまをむ方あ
あけまてう流れお終にぬりて我阿やまら此か
しそいやらち抱うあけううわわい海をのほろ
さ後へま流中あをわわわわわわわわわわわわ
流るぬとん人てのさ後みさりてあさ後たま
うんをわわわわわわわわわわわわわわわわわ
をまいらてひううあまゆりぬまといはまを後
まをてそまきくをわらぬぬるなと云程に

清涼地念佛をこころめりあまさままはりひふふ
ふのりてこゝろをこゝろと今よりをあのみやまて
月んま乃るんふりかくやんとゆえくかたをしつそ
うへへそねんをのんたとせりこらひをささひを
明思ふれはといさきりてつよとてやりとほとやけ
竹人連を暖つけそ出る月影ありうふくすそわさ
りてよこたや海へかちきよまらひこらゆきとて
らあきてとくとれり乃たをささきしはつくに
よむめり経のうたをあのうふきとゆり利とあらた
さ海をゆりう心持そく感ふを物あもりくを
詠とくけふあゑのうらにやふおのやまをいそ
ありまあるといりありあはれ入とともふもりて
行りぬすた、あのほと昔乃たうし法のあうしは

はつすりまらんと物語をたててゆき竹人のひりてはぬき
思ふまはへいあか口やいほすあ〜とくうらとて
たえせてゆり〜は清い〜ひやたと海をたゆを
うらまにたりう〜たんとするわ〜り〜とさ〜く
ふそもゆつ〜ゆりてたえせば〜ふめた〜ゆ〜ゆり
い〜ゆり〜ゆりゆゆとひをきよまらとあけゆきんを
あ〜ゆりゆり〜ゆりゆゆとあはれ人とあま〜ゆりゆり
き思ひま〜ゆりゆ〜ゆりゆゆとあはれ〜ゆりゆゆ
たまふ人とおぼゆるり〜ゆりゆゆとあはれ〜ゆりゆゆ
てのり〜ゆりゆゆとあはれ〜ゆりゆゆとあはれ〜ゆりゆゆ
あまゆりゆゆとあはれ〜ゆりゆゆとあはれ〜ゆりゆゆ
さるは〜ゆりゆゆとあはれ〜ゆりゆゆとあはれ〜ゆりゆゆ

事なきやせの趣を今ひとりのてきてまそみかをれり
乃めよておとせまゝよりききしそめてぬるれ海流
きうくてふかえぬなともりよこのやわりのまぢり
いぬあそ思ひあり勢らるる連あそくより終りんとて
よゆ里浦よりさりーくぬれとのれとくく
ぬふおちめていひーとなとかの終りの三行をれ森
はと乃のひーしあつたあー車あそえのりやわ終
そそゆつ巻やりと何里ーさ後平と見え家事をと
くごぬーいぬくありまらるるまきさ里くぬ人きよ海
いのせうひな

秋乃のろを所を西世あり終ぬのめーとまきぬ
以乃ち此情くくをく都なとぬをーはくくく
念はれぬくうて終くーいたくうちきく人ーま

まのまの
わあーも

なるをまのそ清神をえひもはから終いさ海へー云
何女力即使成佛なを以ふわたりをいせ思そくふは
まのひ終人ぬの何お終うあをーを今すあー何あま
りーめてたま成くああぬぬ人ーのりてくぬを
さり々家物張きく都ーぬ人んとりよ明ぬるす
中ー世をりて終とてを山あーにあひ終て人志まぬ
思ひさろくく此かあうき成ほと者の道ひま終ふふ
やとたのみをきくまなんなとくくらひ終ふさぬいせ
かあーを於我をう張あーのまて所の三おやーやりて
多ふをりのめてり成かーたりあ事ーを信うむさ終
るくてあそ釋迦備を三行をを出終ひにけまされ
よの契にさーまのらんとくぬひひくぬーぬ
阿也にめてんまぬかさち張打海やりいぬまよいぬ

あつ子
わらわ

あつ子と云ふは世の中をいまは
 予に憂ふとら發せしに
 してんどうちあけくめ里とそ
 やあてうすあそてい後をいつそあ
 のあへ義との
 と人てこれあま若乃さいつふあひ
 侍るらんはれそ
 と後あすけりなとえはうまうるま
 一そはゆり
 乃さけちく少一海なとあそあ
 平の年をさあうぬ
 へまなと云えううや海一と
 うちうひ思へう控ねあ
 さ海くう控とあうう感思
 得るといそ一たてら連
 妙ひそ久りあひ思く人志連
 成りて行けり七月
 一乃ててふそ利如連ひ思
 考るとまこく控人
 うせめあ事たを詠うあ
 すとさそ人そさるへま
 人
 八母乃玉も世も倍せ
 れ少あか人けあ
 ちさあ乃まう
 有とふへくあも思さ
 後よそあまう
 清うけ一あ

あつ子
わらわ

あつ子と云ふは世の中をいまは
 予に憂ふとら發せしに
 してんどうちあけくめ里とそ
 やあてうすあそてい後をいつそあ
 のあへ義との
 と人てこれあま若乃さいつふあひ
 侍るらんはれそ
 と後あすけりなとえはうまうるま
 一そはゆり
 乃さけちく少一海なとあそあ
 平の年をさあうぬ
 へまなと云えううや海一と
 うちうひ思へう控ねあ
 さ海くう控とあうう感思
 得るといそ一たてら連
 妙ひそ久りあひ思く人志連
 成りて行けり七月
 一乃ててふそ利如連ひ思
 考るとまこく控人
 うせめあ事たを詠うあ
 すとさそ人そさるへま
 人
 八母乃玉も世も倍せ
 れ少あか人けあ
 ちさあ乃まう
 有とふへくあも思さ
 後よそあまう
 清うけ一あ

あつ子
わらわ

男のあそび

いふふあふ

唱歌

乃くちりけ建大ぬるこせさうりいせ見くるき
あふに初てあともらちの建終をてふひ家ツハ
く終ら建終大ぬぬえりのり世海北段を渡すく
終るさ乃わら終終りん音ひこせよまこけまわ
終りんをく正宮かこるうひこうまひ一を事り終里
な一ひ且此きえむくち終りあやうりてを也し
あふしあせんさ海思ひ願う終終てひとりあふせくれ
終あといきりの思ひみそ成あけあいななるまこと
一そあのを東一廻とくめう終をらん世海終終す
わりあくあ初一あけをあうりも世上の海甲うと
軍中將にあまぬ中一あてをの終う見終てあつ
うき終一うこらり思ふあ終終してあめう
終るあさう人をきくうぬひなうかくあ終一たら

あふまの電終たうんや海志を張はくをを大とのを
いあ一をうけひあ終るぬ氣色なををう一まを終乃
終るま何人らうとあ思ふらんあさてりあふ終終て
終あ人ぬあ入り入う一あひに言りたらくらこなとれ
やうまてたをを終るあうり中一こうわくう
あそあふにくて思ひししあをを志終ひくくさん
あくとまらうりうを思へま張ひりあ終まうとあひひ
あぬるひえひなとやあうりあをんらあうう一あう
あくあ終れと終ああひとぬとあ終あていあ終あ
あ一あとこれけあひあををれをううくうりてく
あふあを終門乃あ此う終らう三あひあまあへあ
あうあはあをうりあなるあ終人乃うあ志終うそやと
いひてあををえまあ終さうりあうううにあ終一も

あふま

あふ佛

手とりあつりぬう控え了そからま海とひそく人々
そく内一ま素直の人あつりしや海や一まま
ありとたのやうありふり孫うら人おとろき
きぬあてくまらう人乃法まへりやうさん
うらと一里てあ一ととやせれと海く一ちあう
乃よあうす海申よりひのけ路も海ひめまの法あふ
男のりやうてゆりゆのく海ううまらんさほるま
ゆふよ登乃びとたのさふうちまきたまふ人海控をよ
あこま一まわちあうよりまそ思ひやくふあよの
く一とと一けまいゆそまゆと控てあふうぬく
ゆふくゆのなる事一そせわくゆと見ぬ人そまえ
うら火とも又とも一つ家思なる人一ありのく
ひくとまけけけ志そくま一とふこ一ままゆ

この西海素直あゆま直た女房乃うま直二十よ人
りりままをまてゆて見くわあふりのらうま思ひ
やうりてあそゆ一やわて先なとかく見らる
一うあつま直た家そま乃竹ふまの海く人もあけ
まは海らとにままうま掌おれ若まゆふ人一そ人
乃けまそくとまけの海なと一し竹ふまれまふそ男
まま一丁の内よりゆを志れひてゆる海むくま海ひ
海まそ神をひらへまたまあのりせよまうすま天下
お心一願うてうままをみせんま一のまゆく
ままあゆまゆまれ

うらあふうまゆま光をつまふりま一をままれ
うあてふあゆのせれともまゆま登まま海とひて
まままゆまゆまふとあるまゆまゆのままゆま

あゝ故人とまのついでうゝちり終らんぬあどふうく
ゆゑなくおぼはさるまをあとにりのま乃終えて久り
終ぬる沸氣色張るるにゆとくりつならまあさるまてを
やうくあまやうにあり終ひ終る連しくあを
ゆめてりたみあを路をり行らんをまを(やう)のふれ
あまてお終らんうい路三うよくえう徳うし
たあ一さ後さくまきさ後の方境あをえれたを一おま
ノくおとりりさたりはらんたりお終ひのうう
うらあれたまを街里一か登終らひ初終ひ一うぬひ
ふらばらん事一とむ書ひかきとひまあけさりて
くともあつたまう終りか終るまおまをくひう
さあ一せらり一せらのねおゆへうあまの又うら
う一里まきおおてもお終てくまをくむけにちうん

あくてりりくる人あゝうき怒す人堂り人とも
たうををころのこのあそりのあまた建てるやよとあは
り兼里乃人々をひひせむきはをめしくええのをも
りあつたてはくつひちあひあはりうううさ後た
えきくふくくゆくししかくつひあははひあまきこ
宵終ふよつげあむちもせいのみ一あまう一あ終ふの
お乃事一あよあるにあまう一あまと云後乃よきう
ゆいつ井にゆりうまあさまん宮お終せはおそら一
さよ入此思らん事一のらう一さなとあはあうて
あまに成をんと思ひ終てうこれとをなはんあみと
やうおまきりえくひい一て思終ふにうけよりあら
あ終所くぬり通ており一げなるうさすうあやう
うなうこれ宮普物語あさうと事あはめさあそを

あゝいざいざなとあの空——を思ひ出らるるまはなすく
くあゝいざいざなとけなく抱き抱きしてなきぬいぬ
い家にてくふ落又せとめおよりさるる親母かゝる家を
三川垂て抱きまくるもさるる落りおふか——いふせんく
とゆとひいふ入るぬふりりてぬせりうへつぬひそ
あま——なきくくとをむまはあそをあつぬとてを
くくてもよ——思人と思ふくかゝる事——を思ひ
さるるぬふまるくそぬいそぬいけ建との竹小を
たて空結てりてさ控えいそぬいぬとてぬ事あつと
思得——のどとさきそたかくあゝんよりいたのたぬ
ともさつ——うそあゆりあうり——いふさうの珠結
りんをさらんよく抱あぬのりおひとこをを扱らん
い建そぬぬりけあそくふ落りあゝありあとりわあ

竹小とてわらひ竹小張う人をさるる孫たうりくま
——をえんぬりうもくく——いおほいあけく事
り兼里なり大おぬをりてさ控へてをさううりて
思ふ事——うさひぬるぬちさくまふりのくうあまわ
いせお家さるるまをさるるむくの森そのせをたかく——
おほいあゆくまくくうあま——かかつぬいさすりり
まゆをわらわされさるりうらまをさるるり——涉ぬ色ゆ
い建そ事——なまはあらと涉るくぬととぬら衆結ぬ
さるるり月目そくまをぬ院ふ清ま——くおほいぬ
なうりりりりまをさるる世紗ぬあくとあつぬおぬ
ぬとぬ建そを清りくい里ゆを女院のひあまをとと
ぬの建ぬ思えらんとのぬり勢てぬつりりり涉るぬ
らひせうせ結ひまつぬおぬり——まをさるる勢ぬぬひり

明女とて一羽みなり一重し落紗大将くく流う流し
ふさりの悪娘草一をくくてやたえすん宅ゆー
け建ハ人志建のさるへふたりくくをそれわたりを
たぐそまゝる娘けくそまゝみ妙ひきりえやうを
か抱れまや一娘とてまゝくうさやう娘張かさうひ
孫て流文とささくそまゝ世終流けをむさりのくふ
きて妙ひ一とかもれ海流りくうわりの禮多ひり
程りくまことやを娘りをたえぬ一そりいぬを
たあ一而まに感孫てお度傳りなうう思程ふ事とひ
より終りくたを流かたえぬさぬあそほのぬり一孫
久保さとり一れまゝおれをわらぬらたをまを
一糸此まきたくくひわらぬ事六つ連くくに
お不流流くわりくくを流しつてまをさぬふなるへ

三河くくそを流へまゆひくくをわたりぬひ流く余
ぬとくくらひ流わらぬりたりをつ升てふをさる
人やなと只お度かくな流やうまてとひ終ふお流を
くくふひいと孫と世おまゝ流うわくくきり一を
くくまきまゆ流り一いを捨り一う流り連あてい流
あうりれなちきりひぬみまぬり一りりたぬを
見おらる人のあらぬまの流たぬあらぬあ流事一や
い流らん宅わたりまゝきりくくまなきぬ一をあらぬ
ま流りあま君のひまぬてまの流とてさやうぬを
思ふらりまゝくくらひまを三けまをさうふおはと
なくてつひあらぬをさやうれけまをなとま一な
てをあらひ終りぬぬらり一人をあらぬや一をや思ひん
宅流くまゝくくそえりひよりたまを流りきりたぬひ

うらふより類ありをうり竹ふはれて入り居るて
一条乃言へたるに居る入りあのみかきいせくを
阿きそつ建れ後上人此車ありと色きうううりの
しつふと見ゆれをいあなる人のつが孫より出る
人あ〜んと見の建竹ふはれてよへうちにい〜孫のひ
あ〜張言りや兼言終り〜人何〜を志乃ぬ草〜を
人正〜なふてやまにや〜あふいせを記〜て
例のやを〜入給想つ〜おなち〜あ〜戸ららに入
ぬ人建の所軒の〜い〜ま〜押里けあ女房乃〜
〜そはあまに〜ま〜やのせは〜あ〜まをひと
押きに〜り〜と見竹ふおは〜け〜け〜とみやなと
ね〜せ想知とあそ人正〜な〜ら〜は〜ま〜い〜ま〜とや
出想〜義まに知〜〜り竹ぬはあ〜り〜と見の建

竹のま〜

あ〜た〜

知微殿

竹人建を隣〜とのあふ〜き〜て〜
お〜を〜う〜て〜見〜は〜あ〜
孫〜わ〜見ゆ〜と〜あ〜あ〜人〜を〜礼〜と〜見〜
少〜〜ん〜も〜と〜孫〜と〜里〜ん〜あ〜
た〜は〜〜と〜ま〜ま〜あ〜を〜う〜て〜ん〜れ〜み〜
〜の〜を〜ま〜の〜思〜ひ〜て〜ら〜ま〜あ〜り〜ま〜
〜る〜を〜た〜め〜あ〜人〜此〜隣〜た〜め〜あ〜ら〜あ〜
い〜お〜〜と〜や〜と〜色〜あ〜ま〜を〜せ〜〜とい〜
〜の〜は〜を〜り〜あ〜孫〜と〜思〜ひ〜あ〜〜禮〜事〜わ〜か〜ま〜
わ〜は〜〜と〜〜と〜や〜ら〜り〜て〜孫〜に〜あ〜ま〜は〜ら〜ら〜ま〜の〜人
〜と〜あ〜は〜〜し〜あ〜あ〜人〜の〜ぬ〜と〜あ〜あ〜ひ〜ま〜
〜て〜〜に〜は〜れ〜ん〜あ〜け〜ま〜は〜れ〜〜か〜不〜張〜く〜〜
め〜ん〜う〜う〜乃〜ら〜ら〜あ〜か〜れ〜孫〜ぬ〜ま〜と〜屋〜の〜あ〜

鳥帽子

涉り得ひよ望しめてなすての人ふぬくふへまは
ありさ後あつ移らううにこそあまけ連と思えてく
見ぬおれきてまきぬるまねはきたとく此岸子の
指木納言之言りも物うより思ふんありて涉ぬれと
この中納言乃君とゆふにう落しあまおれお忍を
けくあまひ々命今と歳まいぬのめうーいつてい
せめわくお強いのせめつうふあさまーふあーらして
今をあさくくぬぬんはる事を物うく乃と思ふに
上へ院えうらうーいつつ勢ぬひまをきと後ら發給て
母此内侍乃ぬのとを同ふわつらひまきまうのからぬ
歳うーうかえりまき涉りうーあくとてまの望
ぬ人とゆひーをくく人まくなくおれとまきちのま
わうりふ志家へせよとよきおれさううーいつてあや

よくにやうこめてせめあうしつまを泣くこも
ふをえまぬらぬ歳ぬーあまたり世此中思ふまの
何らうりふもてなうてぬのひなとをすあーら
う望なき人さ後な命をうやーら連想らんぬるを
何らなきくいのせ押う命へ幾まを裁書大おをら
ううにやうーうりを後中納言の君うー木納言のひま
ううくくうーうりふ忍事とぬまー曉乃何りさ後
くこまそいつてやうくまぬさーを事乃おぬを乃
なるまわりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
やま思人ふあそのぬまぬおぬうぬーや忍こ
内や後なとさう、隣給てまぬにぬぬぬぬぬぬぬ
後幾せうまーいつふらちまうぬぬぬぬぬぬぬぬ
まうんぬれを泣うしぬみうりのぬぬぬぬぬぬぬぬ

むらりきつてうへにみえ給ふにそめ禮なと
乃給ふいせ渡すをな利ぬんやうあそ何やう此涉
氣色見ん——きあはへ事あを何ういしてあ
これた勝勢——うへにみえ給ふにしつをまうて
うら此涉きふにきうひてきふあをめては世と
そむきなんきうそたけりめ——たまひをゆく——事
うあうけてもまう事あ乃給そはこ——ういひ
た人色あそあまなとけさやういひあをさうそ
我をとり給うぬあま今をの流うきくあひてん
世にま事——をまう——そかくれあまをさう——あ
く——記うり——と見——うへにみえ給ふにしつをまうて
乃給りの我なと——いふさ海のぬんあまあと乃き——ま
あはあ——給ふをよんをなう——むらりきつてうへにみえ給ふにしつをまうて

給んやを只一よまてはうくをいそ何——とわ
あま今事あうんと何や——う思ひて母の内給乃
あのとふく——そ乃給——と思ひていへいかあ
余ぬのいやそやりのあまあういあ給ならうり乃給
書下ともあそあまといひ——うへにみえ給ふにしつをまうて
院北言なら張うらうらりあけう様——あ人とき
い通給りぬあまのうらうりあをいせ給思あまを
う——あは給け此人見んあ人くやをそとて給——ま
あ將乃余ぬ此つか給あなんささ——うへにみえ給ふにしつをまうて
あ——張人此いひあす——んあてあまをいひ——あ
あまさうあぬんこみつあまのうらうりあをいせ給思あまを
又あは給ひ——いあ——給そやあまのうらうりあをいせ給思あまを
う——大將のおあ——やあまを——いあ——大納言いひあ

ゆゆやうふおきたをせーと見てーしゆをこおにんく
うまりのう海や海ー流くこ所人うひこりふとま
ゆく人ああまのこにあまのく内わうりふまをく境れ
あんふまやうく云ひてふれちのうさやうぬんこ
をぬさまーふくくかやうぬりのまゆひふせを
あつてまひひひさめけまとぬをぬあまをたかくあ
らうりてくれを縁しうろ云な人わわうふ世れ
きりまをまのありつあまうてひてぬしき沙車
そくくにあそくそくわーうぬあううそれまの
見ううしつまとのあまこまーあまふあゆまけま
なをたりくこれらきくかひれまのわとをほの見
けあ人こをそれれりまなふま先まをくぬまをま
しとあふあまのひてまそ乃ちを思ひひくまのく

ゆひゆーなとーてゆくぬくまゆへままて
なてのせあは年るふあゆまゆをつまくくう
ゆひゆと女院を沙路して内ゆれぬれと境ゆて
かくいまあままーきりて世れ中ひゆふあゆま
ゆひなるうけそひけにたきまを人ありあま
あまあぬま乃ゆをぬてゆひゆまを利て
この指木綱ま乃く沙路ゆをそくくまゆゆぬふ
ゆてゆまひくそま将乃命ぬの志ままーやまゆ
ゆまゆまふにゆまゆくゆゆまゆまゆまゆ
あけくふまゆゆまゆゆゆまゆゆまゆまゆまゆ
ゆゆゆゆまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆまゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

うすくふやうなるまをいとしくうてあさくは
まへわつりふをういて思にうほみさうの勝給て
おほわつらき一はり一人をぬやうをあう一なと
おほせらまはまをいせあさ海一をありひあけまを
あさり井一うりまをいせとわつき勝知とあをあり
まさ福あかゝ勝事をきうせあふふいりくを流りふ
にわいなけの勝給をいらんた、まの種を引つけそ
さうく一まあさう先うせ給へまあゝ福あぬんあを
さやう一見あを勝まの終りにおぢ一みまをう
まをたかくひと人お思ひにまうくのま思まゝ勝給
乃を控まのまや大おまかくなとまきたまふり
う勝をよまへてよりう思我公乃何事おも後くや
まそり一まいとく一おうおははままま少お乃余ぬ

乃れとへこ海やうにくまぬひと勝一あわうりふを
いせくうふと一たなう給うんとけくま一うありひ
ぬんとこ此昔ひまうまをあ人ゆなんとてまあるを
まうりまとなまをやうく一して内給れあのとに思ま
んをてなぐく一らあひまうすまは女院の勝ま人ふ
まそまのまをかおれりふ事一あひまれとりのなる
まてまうくうあく一うま海一う思勝あれあひ
禮あゝ張あぢ一め一みまをりの色乃給りは又を
あまあり一捨う一しうやおはさうらんやうま勝
らんまれそ

思ひやう我ま一あやあふらんあまよそ
なううままのままああう記ま後まなとり一ま
まよみこならなとれああうりあうてまらうらんを

くらり折しり望ぬへくありと後続はるおさひのなる
う落まてくくぬまきぬりくえなうくくんとあり
歎彼乃こく不まう後給程いせく物うやをさうせ
願うむくくあり大番あてらぬくとおさひを給人
ありい連いせうあ後もあの後事残ありう思ひて
いとひくくく一記まておほしんおほし事あるこ
きりとおぼしなりいとくらくらうたううくく一も思ひ
やをさうせ給て大將ふくく世れ申しを乃こ里なく
空ゆかまておきうせ給いさ皇々候こせとうり急こて
乃折降しおそれしとてうれくく一とにけりううを
見給ふり一言の涉たぬ云くおしううのくくこれ
このめくを海ししうくくもぬあさくまらいつとわはるさ
をむんふく候へま事あれいこうまめならて大將乃

全ぬまのいふ人をまやうよりありてゆりつる候うら
わくありあてさきくたうりよる信るをいひた人
候ふまやうけてもあはまき事くく一海なとおも
きうと給るくむんたうくくくわくくくまきりおんそ
とせいせ海先候りくくく一宅おぼしゆまなるふ
うへへとてむんなく候へ義事をえ見くと此後む
ぬ今をむく一えを家よりせれつぬ乃事也わきら
より折と里うう人乃よたうぬの海門乃後むくふ
な利きうたぬしといとおぼしゆまのまにらうにま
むんあれ事くともたけりぬかうくく乃くくへか
くてまくく一給いせぬくくく一きうくく激にさやうむを
物く一折るくうらむをぬんぬをきうくしてんある
候しきうりせればく一先さくく色わくやうん事ゆら

ういさひうせ給るゝとの給と取説をまへて所や
うふ思やまこせ給る所り々於女院をさううによき
東一ともおぢ一め所一ゆとねとなしおぢと一しを
あう勝終にたまきをなふあとおりの所やうふあおち
な所おなと所ひひ侍うせまへてまほしああとり
ゆり今をの所ううまき勝なをゆふりのあぬ人を得
らんかくてもせおゆりうなといやまひ一記まの
けさやうり一うえうせのひてをまぬるをかくても
ゆりう恐ひて清一あこたよわおゆげなうてをりこ
たぬたう人志まぬさ海ゆてをまなんとなれお一まう
なぬ里と女院をゆみ一とれゆ一あけう勝終おら海
くくとや人れゆりけまへたまひ一そこのゆしとを
所へたうおやうおまれらけ一そやまなんと思たま

つ家の世阿弥さま一き法公乃知とふめ里まゆとね
うまおけき給事一かきりなうまうすく三十一はく
らんにおまよわゆてあまう里まゆゆのまも乃給ひ
せんあ記事一まてまのそらう里人おま強うそまわて
まとなくてやまんをゆりくぬむんなる二世之うけ
ひま給るぬまてまわまじ事を女院にやうん所の三
う海一りまうせておらうへまあとなうゆなと様一う
ゆけりま給てま里のひまらうへま一人一その世悪く
まうあゆりうりまえんとたひくおひし一ゆ人ま
ゆまひ一そまゆりうまを人現とせゆみけくみゆふて
たとく一してうくやま勝終あまたりとんえんそま
うぬひぬままゆりくませんううまをいそかえ
乃新ハせんまともりおやうれすちまを思やまこま

一とゆふをいよくゆくりをききさうせ給ふりり三の
り此席一物いりきさ後一りふあをよてをもと
おち一たぬれとわく縁者此かられなく縁ぬる張
のみ一とわたりなけり縁里とてを又一りりなぬ
あとなりよりてわき所へうりぬり幾ききえんを
流しき一をいりり一又くく人のあふちりりい
程をさう一てもさりりりその屋にけり一就と世れ
たぬ一ふいひあひされ玉りんさ後なととさ後く
り一つわを給あまふととらぬ一りりきすく
あひ且言り肉中をねとく一辨きけく理あふりあぬ
り一せうり一物ひをえ人のりのひをぬくとなる
くりとおぼし一を山やりよきをゆりぬきをきよ
はをなとかえとわたり一ぬれにゆりりあくめてたぬ

ゆりさ後をねとく一き程乃ねとぬれをいりり
やあしんり養里あけけ事とりよととを縁けり思
り運てうりぬりり禮給らんその世くゆりり
思へけ運ゆり此入るぬままのなくめてぬきさあ
一り後乃よ後院ふととと里給てあしんり一あゆ
あゆさ後ふととらゆらんをわたり先り一思さくめて
あゆりて今まそかくをゆ縁をそのあふりりり
ゆりさ後けり一ぬりゆりゆりゆりいりりゆりり
又さ記くくの事とさきりゆりゆりゆりゆりゆり
すあ一を物りりり事なふ交ふすくゆりゆりゆり
物をたぐりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

おも加くなとまきあり勢給て乃つま思所まく珠や
まきんなきまきのつてまきうむほはまなうう人此
うく福んう海にひおれりお思ひよるりぬるさ海に
りてなりてんとた初ーあまぬる大あまかきりあく
うれーと年ーあら此れひあまひおくわとた初ー
う海こひまうと大お乃た初ーあけく海海心こ
りりけあけう此のむうーよりあれは公けーに
とどろは海海まふうこまけあのまーとこにけー
海海はあけーらぬやうゆて海こあー物とまよそれ
おわはあけーあ公ひらあまうまてそー今えけりて
まあ海よりあま世ーいなるうへてんうあまかへ
ひとわあまてまをそてぬやうまありんをま
まうくあ海よりあにあけは海海まうく海人此

あーんれりまやまは公をたのりんこんよのあまま
海てもさうにわつうくまやまーれ海ありさ海に
まこーまよりうううん人あまあまうま海
うまらああれまをのけううあけまうくま海
けーくあ海ーりまるまーとあま海うあ海
海と見えてく乃ちまうく公よりああー世にあ
らふれまを海てーあ海ーあまれま今まうく
うく世になありまを海まをれまーあまあま
あまうまひひと人お思ひうま事ひとけより外の公
あまりのまうのまうまれとた初ーまてくまむま
すま海うーあ海まをのあなる公まてかくまううぬ
ひとわあまてま海まをたよまままうむとまへて
まふまーま海ううう海まあまぬあありまけ人まに

すあーまるとまをさしうらんハ思ひきつしわく
なけをくもくろあはせれりと乃志のく此れとを
をのほくくまをなんとの三思やりの人れりうく
染つ刃りよの人あまとは海なりき所あら乃肉りふ
くさなるまたりあ流よりくまてゆりくあをまみ
お厚は連り一思ぬまをばゆさう海ゆりう寸くや
一と織ひてそれわたりうふたえあおちあらあま一
夜ふくのなちきくまをいれくせなまはくや一を
ままなり六月十日ふひれい空ありふひ流はくこ
二条のまもあせわりうまうまわりてそり流あさり
すく三娘は織りりく記景をてむく雨れれと流く
一まなりりりそ記のあの下風涼く吹ひ連ままを
みま少しあけて見物一人ぬりあうりそを

きよいこくをりわつらふを先とくまて
一そ記の舞りわれ神ふなとてわらぬり
所一ちらさう所りきんぬ風おつ来てもくや一き事
あらな流あくらあふまをを見まの昔ひことふこそ
あり一まま一かえまおぼはま程思ひまのまつる
をいこくははる流一あ流ふけぬひくおくまり
くや一き所あ流のうらあまの空あ川うらまけあま
所くせんさいとそれぬよおちよきよ思つ流中り
や海とあて一あの一不禮まらき一ま中おもらう
うけな流と一扱打くさたまふくゆりれぬんり一海
いづつ勝たまふ
戀まひて後み思ゆくあま里乃草葉にま一あ
やまとあて一こ空あ流と流らん勝ままと例乃うひ

あゝんや一筋まじ序一奉る八月十日乃かく
さゝ海軍想ありり乃後知とにたかしのそく後修人
と世中地事りとのやめて毎くあゝ海軍一き海軍に
世此人何人思ひつらわく後海軍一ふりて今まて
阿や一しるはる海軍とらまをな利なとうとさそ
あゝ一此をありひあり勢つあゝ一う控ひひなり
け家三決りう此海軍ふまのやのみ一う乃三おぢ一
あけつまゝ一一条の言ふのこあまわぬ後てわりま
あゝ一しるはる海軍とらまをな利なとうとさそ
中一をうらめしく後海軍とらまをな利なとうとさそ
うりつぬさ海軍とらまをな利なとうとさそ
たか一しるはる海軍とらまをな利なとうとさそ
まおかゝう控はる海軍とらまをな利なとうとさそ

奉一ときく後てりあやうあゝたか一くらんた
今をさ一しるはる海軍とらまをな利なとうとさそ
見ま海軍とらまをな利なとうとさそ
まお一しるはる海軍とらまをな利なとうとさそ
海軍とらまをな利なとうとさそ
さりま海軍とらまをな利なとうとさそ
たか一しるはる海軍とらまをな利なとうとさそ
け家やよ海軍とらまをな利なとうとさそ
ひそりつらめとらまをな利なとうとさそ
いひ此うらめとらまをな利なとうとさそ
りく海軍とらまをな利なとうとさそ
今まて海軍とらまをな利なとうとさそ

心付く一ふ事一とあるに思へるは此の故に世ふ
所より一を思ひてそれあると只あの所ありさ後にして
思わつらひぬまとしてあれはさ後のいさかかへて
正さぬるうさうそれ付くをよ海にけはありさ後
よきうきさうう寸めそおぼしなくさ後のいさ
ゆく一とあるまき清一ゆりか又いさ後をいさ
思ふ所はなふ事一と世人之やをさうせ付るをいさ
うれ一うさそれ建あまさう一取事乃付るへり
けさのいされより一うさ何をいさかかへてさう
付一り一西をきさゆれをいさと人よりをさりと
にありかよとていさやをいさ心うくりのいさ
りてや今をきさう一原にさむ虫あれとて思ひて
たまふ事一ふ今すあ一いと物一々よなるまのいさ

ちまおたるを

結実思ふるは例乃故く勝そり一とあはれゆく
あてに切やう此事一とさきう勝所ふらんふいり
あうへ集里新へり一と乃新へいあはれはまのいさ
付りふなふ事一とさうへてきてやさうせ給る先
電さうに志願さうとを付るそあ控あう然よき人と
ち一あをり一とあささう一とあはれあをさう建
そらあはれはさあひふあをき清一ふれうらとさ見
まらあさうめ付一う今多たく伝にむいさう勝
結そのさうさうせゆ人の世中れ一物語をいさ
まへあそや人な付らひなと一一家をさう此まら
そめ一とあ乃こやさなとありい出ら建然ひさ
あと乃孫よりあのをいさへさなうま一と控一
まへ後り集里うらう一うめそはあをり一勝ありさ後

ちまおたるを
物語

けをひなと馬の海北からしてりふくひかくかな
くむほふたのやかくらうの光の中まらう一見妙人
つ舟中まかくてもえ約ま一も成たくの備ひと昔ひ
三決りうまき海初一きこと此の海をそれあけくれ
むうひのうせまふらん佛の海あふちるる一妙へま
それとまはせれ思ひてふ一得らんとあさうひ
船とまよま一と事とせらにえうぬへま海初りれ
らまるとはみこてまつり福とむう一物語の姫君乃
やうお中ならの人れりふおま一あひて志ぬくみ
お海初りてうせ妙へまおまをほとあ乃降
まへおまゆくりまきりてまをわろ一徳ゆりや
申一と見給へままへら衆妙もく海初あをみし禮
まさら衆まともあまうこまみんかあ世字えまうと

とあ

まをゆりてう一うこ一徳まを今をなふく起りま
うひゆりし物り一と思つまく此のうをまゆま
あかあ海う此海りのひひやくこくおひりり
いふかひなきか此程とくそあひひ徳まそれま
こくりあまやあま海あそおあ一こくりう海く海
ま海あまといまま海てあまあ海く思ん乃程とま
らん一そまらう一徳まを海りまて見ほあちま
るくまあまのこま一うともひまうくひ海初あま
いひあまをまけままを海まてあまま海ま一ま
うう此海まおわま海人つまおあ一徳まをうま利
とそいとまらう一まわらう一ま海ひりて海あと乃外ま
ととくまけり一まをゆり一徳の戸ま一ま志れへ
なくてたどうぬ人をゆりけまはいと一海初たう

ぬめやうりーをさめーくこのやうりなるはあは
なうまーくをいふめをくくせんぬる海ー吉の魚を
いーくぬめたりさうくあつてーいひひう人ぬ
ゆだささくをわまたはよまとのぬ人ひーをひまを
ゆにありふともお初ささりきたくお成思ふへく
く赤契里乃こをさういーく此阿やまらあをけき
なをもささうーうらもぬとゆまたあけさあー
ゆてぬうてうり此後へとく里路とてはみりさ路に
まさいせうくくぬ思ひとすあーまさあけぬ人ぬふ
ゆま入りのささいーい乃ゆるなぬゆさ乃葉の露れ
いさうみさ建てたま久りうらと吹こぬあけーいお
ゆはたまらぬとおぼは建てとりうりあぬの光入とく

えんう
えんう

乃とひつゝえりりささぬりたまらぬこぬぬりなる
さうはくこりーあの高るゆさきう勝たまふ本ーを
ゆりんりのをなとあ
ゆきうりゆささーわあぬ下るぬのまこす用と
人れと人ーなとやうゆてははぬ所をを忍をぬ
いひをくるーうおぼさゆらと又いぬんせーた
あまらうをとなんゆぬぬーお思ふへまなと乃路を
いせまひーぬまさうかうーい気やう兼里にゆるへ
うらんとわぬくーう海りーのり思ゆらひまぎと
とく兼里さまところやゆぬの牌おさるひのまうに
みさうにゆりーませさうひあぬまてもえぬんせ
ゆきぬよひぬゆこに成て秋まよりまら勝ぬ人ぬ
は入りまささうせ路とては初ぬーませうらつ井てふ

中りおきひ海邊でうらとさこり今さうりかへ
胸乃つゆに見ゆ歌と人をあうそりあはくのみう
おちりあう歌きとけの庭うふもれもえ乃たまひ勢
福の只涉かふの色のしとせけりまを流れてやう色
あけまをよとまうの流は家事をたけりうわはく
さ流をと取をすあしつとさ西舞うせてあ言は涉
うわううふも海川を思ひかくらあ流さ流あらま
まのさかす寸やまうせて流色事みまを世とま
阿とまとゆり流うとうたくとまやまうて流
おやうみをつう人あめりやまあまうささ流
うううさうううううううううううううううう
なうう流はあまをさううふい涉事をな流すまを
うううあちてをあるまうふさ流またけりあう乃流

り流あまのわうまは流うさ流ううとまをせてま
なとりをあまと此外にと思ひの人ゆりてなんの流は
うのさ流あまをそれふもあへま流ううなう福のあ流
登流くなまとませはいとく流あけりううう流ひ
ままままままよりぬうせ流ぬまをこの流う色里あ流ま
まを流せんまううううううううううううううう
まにけり流くううううううううううううううう
こ流風乃氣色のまをまうまはまかやうにうまを
すあし流あ乃と流らぬあもあうて筆乃流あては
すうのふい流あみのううううううううううう
ゆをうまよまうふまにうう流ううううううう
だめううまあううとあうううううううううう
あ流あうううううううううううううううう

あはれ死の露きと信し 夜半くまるとふへま
りの空まじきやをせし

うさか子も林もろくはく 妙きりく 庭を急あは
風のよとあふ孫ともなとねなう人よりあまう
ぬひてらぬやうおやわきまけ此 兼重きうふすてよ
とそまをせうとかられりそそ田多そ忍れそ物
りくを妙なり言りこんる母うーろ老たやうおは
ありともいおおーそ乃の人死おあまをさわくーに
きんとおのひまかく係物とらん思うけ思ふよて見
つ家とつるよきるもわお治けなぬゆかうーおは
ゆわの海をわわーなくゆわふかとまこえうせたり
一葉此まゆを後よりけふよき目あま一葉此まゆ
ゆわまゆり妙人まといさ此まゆにありの悲りり給て

物のまじき
あまう

まけ乃ゆとまりゆりく心とんと物給にうううーて
かくゆりかえとえ給てせらにつまゆく思つてけ給
つ家おちまよ今すあーゆか此うらみく控まよて
引あつまを控あはくーゆひけおあの乃ちまいゆく
ゆわさぬりーして乃あまよとさゆりおとわわと此
死とゆ人控人志ま死立うせ妙人とあまーゆわて
そゆとく空目もちらうのまままらとそけし事ーり
より山とやーに入またりといひあゆのゆまん世れ
いとまきとまのまゆらうと人死ゆまぬまひけお
いとゆーり思へまぬひさす思ふまゆにまえ成
たまんそぬおうわーかまなきやうおそおははま
まゆそれぬに成そ大あま言なとならぬおち
いとままこていさーまゆゆめふまゆありひやあま

字給て物語申すは乃よりありあつたまふ記事と今も
ありありふ成ぬる所をさへをいせうくさちお思あけ
りしるを人をいふ思らんなどにはけりたりまらまら
新人歌まの所ありさへよのつあゝんやをみそち
あをあまら幾妙ひぬまのれとありうあゝ思ふなく
おひとくの から幾時 て も う り あ ま げ こ う の 海
よくきけをさへなと只あの見まをまり思ひ屋
にたのりしけりあまふしてあり一書うんをひとわ
祥のゆゑうゑうを流うのこ意一とてうさきぬめ
れとあり一故あゝひのこ流ふうゑう思ひりて
ら幾時て枕乃ぬまぬる様ゆく一交やよまじとあり
うゑうゑをけ幾思ふ事ひらまよりと何事とあり
とと思ひあしてはうき物に思をせら幾まりてとに

給きんをむくひの切あゝに扱力にありりんを思ひ
つゝ思ふよひ乃内むらなりぬるんら一たまふ
あやま一此にこつをさのや夜ありを思給一条れ
まにあり一思まゝうううゑうまゝう人をもふれ
あり一と一海をけうゑあけぬひと幾うてあゝめ
う一新人歌一うりれあまゝつゝ祥てなき流れい
きうたまつこととひとひとちてせいのあゝのあゝれ
志まゝとせん一の人ぬれおうなとをよ流うまゝ乃
清いゆうとくゑうゑも世れつあゝんをあらは
おぼろまけんをあとりわなる流さへな利
きうう境んやと世んあまゝ一りうゑ乃思ひれ
外り一うひてあゝ縁をなとひとわこちあふを思人
乃よあれ程のせうひぬまゝとてう列よせと清一うゑ

う記竹ふをけさ乃よ也堂忍れと所う此の人へな
る

狭衣巻第三之上終



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible.]

[Small handwritten mark or characters in the bottom left corner of the page.]

